

宮城県図書館

図書館新時代の 幕開けに

— 創刊にあたって —

宮城県図書館長
高橋 武雄



このたび当館では、資料やスペース、機能などを大幅にアップし新生開館しました。明治14年創立の当館は装いも新たに生まれ変わった今、広報活動でも、「宮城の図書館新時代幕開け」にふさわしい内容が求められています。

そこで、新たに『宮城県図書館だより ことばのうみ』を発行することになりました。利用者の皆さまと図書館とのところが通い合う広報誌にしたいと願っています。

創刊にあたり、図書館と言葉との緊密な結びつき、そして当館の歴史なども踏まえながら、皆さまに親しんでいただけるように、『ことばのうみ』という愛称をつけました。

そこには、仙台藩出身の国語学者で、当館の第8代館長でもある大槻文彦が17年をかけ、日本最初の国語辞書『言海』— 現在私たちが何気なく使用している国語辞典の礎— を独りで編纂・刊行した偉業にちなみ、その労と功績を讃え、感謝し、郷土の誇りとして心の拠り所にして欲しいとの願いも込められています。『ことばのうみ』は、当館の憩いとふれあいの場である地形広場にもつけられている愛称です。

幸いにも、大槻文彦の感動的な半生を描いた『言葉の海へ』（昭和53年刊、大佛次郎賞、亀井勝一郎賞受賞）の著者・高田宏氏から心を込めた題字の揮ごうと寄稿をいただきました。

私どもは、本誌を皆さまとの共通の広場として、縁（ゆかり）の名に恥じない運営に心がけてまいりますので、広く皆さまからの建設的なご意見をお待ちしています。

創立117年の歴史に 新たなページ



浅野史郎知事、遠藤嘉彬教育長、佐々木久壽県議会議長、高橋武雄館長らがテープカット。

この1年で100万人を超える 県民のみなさまが来館

▽宮城県図書館新館オープン [平成10年3月21日]

記念講演会『本のある暮らし』では、作家・荒俣宏氏が自身の蔵書やコレクションを紹介し、図書館で発見することの楽しみについて語った。



▽音楽鑑賞講座 [5月から9月まで全7回]

音楽評論家・田村輝顕氏の解説で「大作曲家の隠れた名曲」などを堪能した。この他、ミニシアター青柳館では毎月CD・LDコンサートや上映会を開催。

▽第29回子どもの本展示会 [5月14~17日]

平成9年刊行の児童図書1,400冊を一挙に展示。この後、県内の図書館・公民館など28会場を巡回、来場者は約6,500人。

子どもの本展示会
本館には市町村・学校
図書館関係者、親子など
約1,200人が訪れた。



▽講演会「みやぎゆかりの先哲たちⅠ」 [5月23日]

『言葉の海へ』の著者・高田宏氏が「大槻文彦をめぐって」と題し、文彦が青春期を過ごした幕末の時代背景などを講演。『言海』の自筆稿本も展示され、関心を集めた。